



ぶらり相生第 11 号

平成 29 年 11 月

「和泉式部のしだれ栗」

ぶらり第 9 号で「親子のめぐりあい 和泉式部伝説の地」を掲載させていただきました。そのめぐり会めぐりあひに関わる地が那波の得乗寺とくじょうじです。

今回は得乗寺を訪れ、ご住職にありがたいお話をお聞かせいただいた内容のぶらりです。

訪れた日は秋の快晴に恵まれ、見事な中庭にある枝垂れ栗を拝見させていただきました。幸運なことに今年は、ここ数年では珍しく多くの栗の実もなる状況と説明を受けました。通称「雨宿りの栗」といわれ、昭和 20 年代までは相生の観光スポットの代表として賑わっ



ていたそうです。

和泉式部が娘のこしきぶの小式部内侍を訪ねて矢野荘を訪れた時、にわか雨に遭いその時娘との再会をはたすという劇的な場面を演出する枝垂れ栗です。栗の木が垂れて和泉式部を雨から守ったという伝承があります。

DNA 鑑定の結果、西日本に 2 本しか残っていない貴重なものです。平安時代に和泉式部をかばった栗の木は、相生市立民俗資料館に展示されています。

